

氏名	ゆ はら とも あき 柚 原 知 明	職名	教授	就任年月	2008年（平成20年）4月
【学歴】	2000年3月 東北大学大学院経済学研究科博士課程前期修了（経営学専攻） 2006年3月 東北大学大学院経済学研究科博士課程後期修了（経営学専攻）				
【取得学位】	2000年3月 修士（経済学）（東北大学） 2006年3月 博士（経営学）（東北大学）				
【職歴】	1983年4月 宮城日本電気㈱入社 2002年3月 セレスティカ・ジャパン㈱へ移籍（宮城日本電気㈱がセレスティカへ売却のため） 2006年9月 ㈱ウイズダムキャピタル入社（～2008年3月迄） 2008年4月 宮崎産業経営大学経営学部教授（現在に至る）				
【専門分野】	経営管理論 経営組織論 経営戦略論				
【研究課題】	①経営戦略と経営組織の相互作用 ②ダイナミック・ケイパビリティ				
【担当科目】	経営学総論A、B 経営管理論A、B 経営組織論 スポーツ経営論				
【学会・社会活動】	日本経営学会 経営学史学会 日本労務学会 日本ベンチャー学会 経営情報学会				

【主な研究業績】

区 分 (単・共別)	著 書 ・ 論 文 名 等	発行所・掲載誌・発表学会等	発行・発表 年 月
著 書 (共)	『経営学の基本視座 河野昭三先生還暦記念 論文集』	まほろば書房	2008年6月
学術論文 (単)	「我が国電機産業における成果主義賃金の特 質―日経連及び労働界の賃金政策を踏まえて―」	東北大学『研究年報 経済学』 第67巻第4号	2006年3月
学術論文 (単)	「我が国電機産業における成果主義賃金の特 質と動向―日経連及び労働界の賃金政策を 踏まえて―」	日本経営学会編『経営学論集 76集日本型経営の動向と課題』 千倉書房	2006年9月
学術論文 (単)	「ベンチャー・ビジネスにおける戦略的資本 政策―ベンチャー・キャピタルを中心とし た視点から―」	宮崎産業経営大学経営学会 『経営学論集』第19巻第2号 (通巻第35号)	2009年3月
学術論文 (単)	「プラットフォーム・リーダーシップにおける 戦略的構築への一考察 ― A.Gawer & M.A.Cusumano の「4つのレバー」 論の視点から―」	宮崎産業経営大学経営学会 『経営学論集』第20巻第1号 (通巻第36号)	2010年3月
学術論文 (単)	「知識資源の動態性と組織の相互作用に関し て― Penrose の所論を中心とした視点から―」	宮崎産業経営大学経営学会 『経営学論集』第21巻第1号 (通巻第37号)	2010年11月
学術論文 (単)	「Barnard のリーダーシップ論に関する一考察 ―管理者における道徳の視点を中心として―」	宮崎産業経営大学経営学会 『経営学論集』第22巻第1号 (通巻第39号)	2011年9月
学術論文 (単)	「Barnard の権威に関する一考察 ―無関心圏の視点を中心として―」	宮崎産業経営大学経営学会 『経営学論集』第22巻第2号 (通巻第40号)	2012年3月
学術論文 (単)	「バーナード組織論における二元性の特質と調 整―ケストラーと西田幾多郎の所論を踏まえ て―」	宮崎産業経営大学経営学会 『経営学論集』第25巻第1号 (通巻第43号)	2015年3月
学術論文 (単)	「フォレットの統合理論に関する一考察―グラ ハムの所論を踏まえて―」	宮崎産業経営大学経営学会 『経営学論集』第26巻第1号 (通巻第44号)	2016年3月
学術論文 (単)	「バーナード組織論における道徳準則の創造 ―西田幾多郎における二元論の否定を踏まえ て―」	甲南大学経営学会『甲南経営 研究』第57巻第1号(通巻第 204号)	2016年11月
学術論文 (単)	「ポーターにおける CSV の特質に関する考察 ― CSR と三方よしの概念を踏まえて―」	宮崎産業経営大学 『宮崎産業経営大学研究紀要』 第28巻第1号	2017年11月
学術論文 (単)	「バーナードにおける道徳準則間の対立に関す る一考察―フォレットの円環的反応と動態的 経験を踏まえて―」	宮崎産業経営大学経営学会 『経営学論集』第29巻第1号 (通巻第47号)	2019年3月
学術論文 (単)	「D.J.Teecce のダイナミック・ケイパビリティ に関する一考察 ― 複合形態の自己補正と自己 再生を踏まえて―」	宮崎産業経営大学経営学会 『経営学論集』第30巻第1号 (通巻第48号)	2021年3月
翻 訳 (共)	『ハーバードのフランチャイズ組織論』 Jeffrey L. Bradach, <i>Franchise Organizations</i> (Boston, Massachusetts: Harvard Business School Press, 1998.)	文眞堂	2006年1月